

高齢者介護ホームやすらぎの家で

お年寄りも家族も



幸せな生活



いろいろなサービスを
受けて気分転換を

安心してあづけられ

負担が軽く

介護者 お年寄り

これから急速に進むといわれる高齢化社会。平成元年八月一日現在で六十五歳以上のお年寄りは市内で二万八百十四人を数え、これは人口の九・四%に当たります。六年後には一一・三%になると予想され、富士市も例外でなく高齢化社会に向かっているといえます。

こうした中で、高齢者のための福祉は、新たな形のサービスが始まっています。市内中央町に、ことし四月からオープンした「高齢者介護ホームやすらぎの家」もその一つ。今回は、この福祉サービスを紹介します。

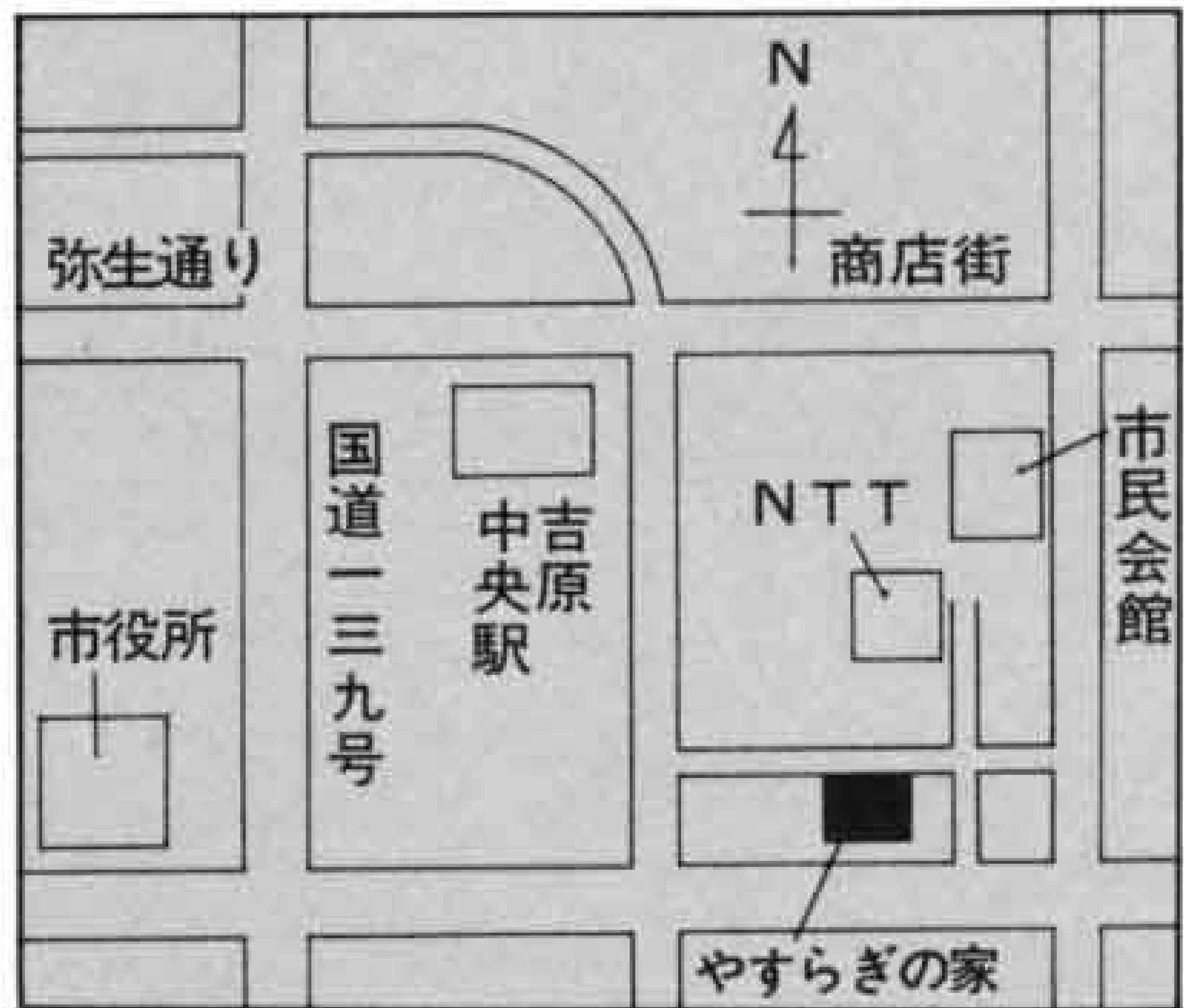
介護者に代わって介護
やすらぎの家は、家庭で介護を受けているお年寄りを通所の方法で介護者に代わって介護する施設です。

身体的にも精神的にも苦労の多い介護者の負担を軽くする一方で、お年寄りの孤独感をなくし、自立的生活を助けることを目的として設置されました。

対象者は、市内に住所のあるおむね六十五歳以上のお年寄りで、日常生活を営むのに支障があり、家庭で介護を受けている人です。利用時間は午前八時三十分から午後五時三十分まで、血圧測定や入浴・食事・余暇活動などのサービスを受けられます。

利用料は一日七百円、一日の定員は十人です。

やすらぎの家を利用しようとす
る場合は、市福祉課へ御相談くだ
さい。☎ 五一〇三三 内線三二八。



△白を基調にしたかわいい建物



△「おばあちゃん絶好調だよ」1日2回血圧測定などを行います



△日課の始まりは体操から



△指導員の介助で入浴

△すぐそばの公園に散歩に出かけ
リズム遊び

鈴木しんさん(吉原3)

四月に体を悪くしてしまってね、五月からほとんど毎日ここへ来ているよ。気兼ねなく利用させてもらえて、あまけにあふろまで入れて、お昼をよばれて、あやつもついたいだね。お昼もいいもんが出るよ。一日家にいても、テレビを見ているぐらいだから、気分転換にもなるよ。



山口はつ子さん(左)の娘の渡辺幸子さん(上横割)

お昼もいいもんが出来るよ

大変助かっています

しかし、いつも心配をしていなければならず、思い余つて市に相談したところ、やすらぎの家を紹介してもらいました。送迎の時間がかかりますが、以前のことを考えれば精神的に楽で、全く苦になりません。感謝しています。

おばあちゃんは介護が必要な状態なので、これまで親戚の人には頼んだり、仕事の合間に電話をしたりしていました。

おばあちゃんは介護が必要な状態なので、これまで親戚の人には頼んだり、仕事の合間に電話をしたりしていました。



△ほかほかの食事



△指先の訓練に隣接する小規模授産所「吉原つくし」の作業を手伝う。きょうはたこ焼きの箱つくり。